

鶴ヶ島ものしり博士になる

「つるがしま郷土かるた」



問合先 社会教育課社会教育担当

「未来を拓く つるがしま郷土かるた」は、平成17年3月に当時の小・中学生の協力によって読み札・絵札をつくり、完成した郷土かるたです。

鶴ヶ島市に残る自然や文化遺産などを題材にした郷土かるたは、遊びながら郷土の歴史や文化を学ぶ楽しい教材となりました。また、子ども会の事業での活用を通して、青少年の健全育成に大きく貢献してきました。

鶴ヶ島の 児童生徒がつくった札

「つるがしま郷土かるた」は、平成15年から市子ども会育成会連絡協議会に制作が委託され2年をかけて完成したものです。

作成にあたっては、市内の小・中学生から鶴ヶ島の自然や文化遺産などを題材に作品を募集し、読み札2193首、絵札795枚の応募がありました。その中から優秀な作品を選考委員会がそれぞれ46枚選びました。



世代間交流と郷土を学ぶ かるた大会

郷土かるたの完成を機に、教育委員会と子ども会育成会連絡協議会では、子どもたちの成長と郷土かるたの普及を願って、「新井慶司記念杯 未来を拓くつるがしま郷土かるた大会」を毎年実施してきました。



つるがしま郷土かるた大会

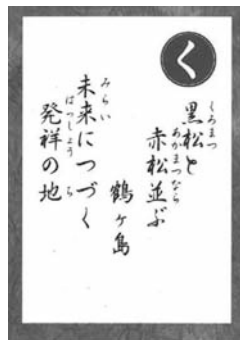
かるた競技は、団体競技と個人競技に分かれており、各試合で子どもたちの熱戦が繰り広げられています。

予選リーグを行った後、決勝トーナメントを行います。上位入賞者は、「彩の国21世紀郷土かるた」を使った県大会へ出場します。

また、大会には、子ども会育

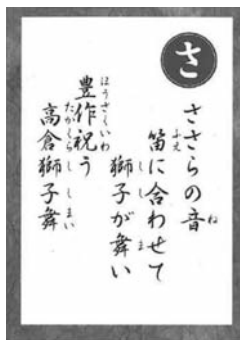
絵札・読み札の紹介

かるたには取りあげられた札の解説書もついています。その一部を紹介します。



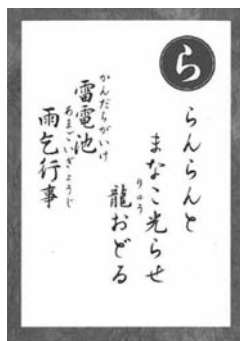
【解説】

「地名『鶴ヶ島』発祥の地」は、脚折町一丁目にあります。市の名称は、そこに生えていた相生の松に鶴が巣籠った伝説にちなみ、縁起が良いということや、広く知られた名ということで、「鶴ヶ島」となりました。



【解説】

江戸時代から続く高倉獅子舞は、高倉獅子舞保存会により継承されている、市内で唯一残る獅子舞です。毎年11月2・3日に高倉日枝神社を中心に行われています。高倉獅子舞は、三頭立ての獅子舞でささら獅子とも呼ばれ、笛吹や歌うたいに合わせて舞が奉納されます。



【解説】

江戸時代から伝わる脚折雨乞は、脚折雨乞行事保存会が4年に一度行っています。長さ36m、重さ3tの龍蛇を白鬚神社から大勢で担ぎ、雷電池に入り「雨降れたんじゃく、ここにかかれ黒雲」と叫びながら降雨祈願します。

鶴ヶ島のしり博士になる かるた体験も実施

市内小学校では、かるた体験を行っています。平成25年度は小学3年生を対象に、子ども会育成会連絡協議会の役員が出向いて鶴一小、杉下小、栄小、藤

成会連絡協議会役員の他に、高校生・大学生を中心としたボランティアグループ「つるがしまジュニアサポータークラブ」や、中学生が対象の「ジュニアリーダー養成講習会」受講生などが運営に関わり、審判や集計担当などで活躍しています。



学校でのかるた体験

小で行い、今年度は鶴一小、杉下小、長久保小、栄小でかるた



鶴二小区支え合い協議会でのかるた体験

体験を行いました。はじめはにぎやかだった子どもたちも、い

ざ、かるた競技になると読み札の最初の文字を聞こうと次第に真剣な表情へと変わっていきま。どの学校でも、鶴ヶ島について学ぶとともに、集中力が養われる授業となっています。

また、鶴二小区支え合い協議会でもかるたを通じて、お年寄りから子どもまで、世代を超えて一緒に楽しみました。

作成から10年

「つるがしま郷土かるた」も作成から10年が経ち、読み札絵札の中には、題材の名称などが変わってしまったものがあります。

つるがしま郷土かるたの更なる発展と、次世代に読み続けてもらうために札をいくつか更新する時期にきています。今の鶴ヶ島に合ったかるたにするために皆さんの協力をお願いしたいと考えています。

郷土かるたの販売と貸出

「未来を拓く つるがしま郷土かるた」は、一般の方にも、市役所5階社会教育課で販売しています。(1セット1000円)

また、図書館と社会教育課では、貸出しも行っていきます。ぜひご利用ください。